

議事録

会議等の名称	令和3年度 東御市美術品取得審査委員会	開催日時	令和4年2月22日(火) 午後1時30分～ 午前2時00分
		場 所	東御市役所本館 第二委員会室
主催者(事務局)	東御市企画振興部 文化・スポーツ振興課文化係	議 長	田丸副市長
出席者	委員：田丸副市長、山田総務部長、小菅企画振興部長、井上総務課長、小松会計管理者、滝澤文化・スポーツ振興課長 計6名 事務局：神津文化係長、佐藤丸山晚霞記念館長、日向、花岡、川崎 計5名		
欠席者	上野契約財産係長、大竹梅野記念絵画館長 計2名		
1 開会	事務局	(開会)	
	事務局	まずは委員長あいさつ、田丸副市長よろしく申し上げます。	
2 委員長あいさつ	副市長	ご苦労様です。本日の審査は3件ございます。予算の範囲内で検討いただいておりますが、良い作品が残っていくようにご協力頂きたいと思っております。宜しくお願いいたします。	
3 審議事項	副市長	(1)「令和3年度丸山晚霞記念館の美術品取得(案)」について、事務局から説明をお願いします。	
	事務局	1点目は丸山晚霞「風景」(仮題)です。寄贈申請人の榊原さんから、知人宅にあった丸山晚霞の絵について当初(知人と来館時)は当館での購入の提案がありましたが、知人が高齢であり家にあっても仕方がないとのことから、故郷に作品が帰るのなら寄贈するという事でお預かりしました。この作品には書簡が付属していて、前所有者の時のもので大正8年頃とあり、何かの理由で作品を手放したという事、絵は信州の高原、千曲川沿岸の写生だという事が書いてあります。(絵を指して、)千曲川がこの辺りに流れていてここに山並みがある事から、千曲川左岸から見た風景で間違いのないと言えます。(丸山晚霞記念館運営委員の)林学芸員、滝澤学芸員によると、この辺りが上田の山並みではないか、東御市の布下は考え難く、羽毛山から海野方面にかけての千曲川左岸から少し高台を描いた絵だそうです。どこを描いたか確定していくためには、(歴史も勉強したうえで、)この山並みを照合する必要があり、私は八重原に上がる坂だろうと思っています。現在は木	

が茂っており、絵のようにあの辺を見渡すのが難しい場所もあり、写真等を使い検証していきたいと思います。また額がかなり年が入っており、寄贈承認の暁には紫外線防止でアクリルに替えて、裏の板もはプラスチック等に替えたいと思います。

2点目は丸山晚霞「路傍の家」(仮題)です。寄贈申請人の佐藤さんからガラスの修繕の相談を受けましたが、画材屋を紹介したところ、「(画材屋に頼むのは)面倒くさいからあげる」と置いて帰られたので、寄贈の申し出をしていただきました。この作品は状態が良くないことが一目瞭然ですが、サインには特筆すべき点があります。(絵を指して、)ここに「○の中に晩(以下「○晩」)」と書かれ、ここには「漢字で縦書きの晚霞」があり、ここには「ローマ字で B maruyama」とあり、3つの丸山晚霞特有のサインがあります。ちなみに「風景」(仮題)は「ローマ字で B maruyama」の1つです。丸山晚霞は1904年から1905年末まで小諸義塾で図画教師として働いていまして、当時の展示会の作品を見るとサインは「ローマ字で B maruyama」だけなので「○晩」がないサインは小諸にいた時までとほぼ解明できます。(したがって「風景」(仮題)は1905年以前か?)その後、丸山晚霞は太平洋画会研究所の水彩画教師として東京で働き始め、当時の教授の識別として「○晩」というサインを使用し始めました。(したがって「路傍の家」(仮題)は太平洋画会研究所所属時か?)3つのサインが入っているものは丸山晚霞のサインや作品の変遷過程を知るうえで非常に貴重なものだと考えられます。

副市長

質問・意見等ございますか。

(質問・意見なし)

副市長

(2)「令和3年度梅野記念絵画館の美術品取得(案)」について、事務局から説明をお願いします。

事務局

1点目は河野扶「とりとめのない空間」です。河野扶のご遺族の中村さんからの寄贈の申し出になります。河野扶の膨大な随想メモ(手記)をデータ化してくださり、当館の「河野扶展」(2021年)の開催や図録制作においてお世話になりました。河野扶展の展示作品の中で一番気に入った作品を所有者から購入し、それを当館にご寄贈くださるというような意思を表してくださいました。河野扶展を契機にご遺族から作品寄贈の相談をいただいておりますので、ある程度数が増えた暁には当館の主力作家の1人になる可能性があります。また梅野隆・初代館長も河野扶の顕彰について手記で触れています。

2点目は小出三郎「瀧」です。当館の「吉岡憲VS小出三郎展」

		<p>(2017年)を見た伊藤さんが当館への寄贈を申し出てくださいました。小出三郎は梅野隆も手記で取り上げていますが、ご遺族が大事にされていて作品が市場に出回らず数が少ないのが現状です。顕彰を進めるうえで貴重な申し出だと思います。</p> <p>3・4点目は近藤光紀「少女」、「鐘つき時計」です。佐藤政子・前副館長が代表の美術研究藝林からの申し出です。再来年度に近藤光紀をとりあげる計画があり、それを話したところ寄贈の申し出に至りました。近藤光紀は戦時中に松本の浅間温泉に疎開していて、そこで生涯を終えている長野県にゆかりある作家で、長野県ゆかりの作品を増やすことは地域の美術館としての役割に大きく貢献すると考えます。</p> <p>5～7点目は菅野圭介「冬の海」、「黒潮」、「風景（山湖緑映）」です。美術研究藝林からの申し出です。当館の主要作家である菅野圭介は梅野隆が長年に渡り顕彰を続けてきた作家で、梅野隆の自著の表紙に「黒潮」が使われており、昨年はなんでも鑑定団に作品が登場し、当館の主要コレクションとして注目され全国から問い合わせが殺到しました。今後も引き続き研究・顕彰を続けていくべき作家だと考えます。</p>
	副市長	近藤光紀の作品は何でこんなに（評価額が）高いのですか。
	事務局	評価額は画廊2店の鑑定結果の平均値を載せてあります。近藤光紀の作品は作品のサイズが大きく、日展の作家ということで国内における評価が非常に高いことからこの金額になると考えます。また現在は寄託作品として当館の所蔵にあり、収蔵庫を新たに圧迫することはありません。
	副市長	他に質問・意見等ございますか。 (質問・意見なし)
	副市長	(3)「東御市への刀剣等寄贈(案)」について、事務局から説明をお願いします。
	事務局	1点目は藤安将平「(無題)」短刀です。藤安将平は坂城町出身の人間国宝・宮入行平の弟子の1人です。当市八重原に工房を構える宮入法廣刀匠曰く、(宮入行平の)弟子の中でも非常に腕が良く、新作名刀展で数々の受賞歴があり、京都の藤森神社からの依頼で鶴丸国永の写しを制作したり、薬研藤四郎吉光の再現刀を展示して注目されている刀匠だそうです。また刀の聖地・赤岩がある東御市に相応しい刀剣であるという旨の推薦を頂きました。 2～4点目は宮入法廣の刀剣で、新作名刀展で薫山賞を受賞し

		<p>た「乙亥歳芽吹季」(仮題)太刀、「壬申歳秋日」(仮題)短刀、「白牙把紅把撥鏤鞘金壯刀子」刀子です。(刀子というのは)こんなに小さいものなんです、当市のふるさと納税の返礼品としても使われている種類の刀剣になります。5点目は「乙亥歳芽吹季」(仮題)を写した宮入法廣の絵図「押型太刀絵図」です。6点目は宮入清平の書「寿」(仮題)です。宮入清平は宮入法廣刀匠の父で、宮入行平の兄です。7点目は大隅俊平の書「鐵之華」(仮題)です。大隅俊平は宮入行平の弟子で人間国宝です。</p> <p>刀剣等を充実させてまちづくりに活かしてしていくことも考えると、これらの寄贈の申し出をは非常に重要ですし、是非とも申し出を受けたいと文化係としても考えています。</p>
	委員	ふるさと納税で 350 万円払うとこれがもらえるんですか？
	事務局	(この作品ではないが同じ種類の刀子が) 貰えます。
	事務局	また法人だと 1000 万、個人だと 500 万で紺綬褒章の対象ですので、今後相談等の手続きをします。
	副市長	大変貴重なものであることは間違いなく、折角の申し出なので、市長が宮入法廣刀匠に話を聞きに行ったところ、いずれも貴重な物に将来なるだろうと言われたそうです。私から見ても決して悪いものではなく立派なものだと思います。ただ(寄贈を)受けると、絵画以上に定期的な手入れが発生する事をご理解いただきたいです。他にご意見がないようでしたら承認でよでしょうか。
		(異議なし)
4 具申	事務局	<p>それでは3案とも適当である旨、具申いたします。</p> <p>(具申書(案)を配布)</p> <p>(具申書(案)朗読)</p>
5 その他	事務局	<p>その他、何かございますか。</p> <p>(なし)</p>
6 閉会	事務局	(閉会)